

平成26年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成26年1月8日

礼文町長 小野 徹

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成 26 年の新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しい中、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様には、日ごろから町政の推進にあたり格別なるご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げます。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。

本日受賞された皆様方は、永年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって郷土礼文町の発展のため献身的にその職務に精励され、地方自治や住民自治の進展、交通安全運動の推進、また、文化の振興に尽くされ、地域を災害や火災、海難事故から守り、安心安全な地域づくりと住民福祉の向上に尽力されました。心から敬意と感謝を表すところであります。

また、礼文高校書道部の<sup>かわむらしほ</sup>川村織穂さんは、昨年10月の全道高等学校書道展において、見事に最高賞である全道高等学校文化連盟賞を受賞され、今年7月には茨城県水戸市で開かれる全国大会に北海道代表と云う快拳を成し遂げられたものであります。

ここに川村織穂さんと礼文高校書道部の皆さんの熱意と日々の努力を称えたところでございます。全国大会でのご活躍をお祈り申し上げます。

さらに、昨年は、永年にわたって、本町の交通安全運動にご尽力された方々が退任されました。

40年以上にわたり、本町の交通安全運動の推進に格別なるご指導を賜りました指導員の「山口寅雄さん」には、退任にあたり、そのご尽力に対し、感謝状を贈呈させていただきました。

また、4月には交通安全指導員の「今 勝也さん」、10月には船泊交通安全協会長の「向田正博さん」が相次いで急逝されました。

心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、長きにわたって、本町の交通安全運動の推進に格別なるご指導を賜りましたことに、感謝状を贈らせていただいたところでございます。

そして、昨年8月には、札幌市にお住いの笹山俊弘さんがお亡くなりになりました。

笹山さんは礼文島出身の著名な画家であり、ふるさとの山に緑を増やしたいと8年前から札幌の仲間と一緒に木を植える活動を続けられてきました。ご逝去に際し、その功績をたたえて昨年8月に感謝状を贈らせていただくとともに、知床の山の木を植えた所を「とっちゃんの森」と命名させていただきました。

心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、長きにわたるご功績に深く感謝を申し上げますところでございます。

新しい年の始まりにあたり、ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、本町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆様、ご功労のあった皆様にあらためて衷心より深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、これからも礼文町発展のために変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます次第でございます。

さて、2014年、平成26年は、<sup>うま</sup>午年であり、干支は「甲午（きのえうま）」で、馬は「ものごとがうまくいく」「幸福が駆け込んでくる」などと云われる縁起のいい動物です。

生まれたての仔馬は、一時間ほどでしっかりと立ち上がり、2～3時間もすると駆け回れるようになることから「上昇運を象徴するキャラクター」とも呼ばれております。

「午(うま)」は太陽が最も高く上がった状態を示しています。お昼の12時を「正午」と云うのも実は、こうしたところからでているものでございます。

また「甲(きのえ)」は「草木の芽が殻を破って頭を出した」状態を表わし、「新しいことが始まる」ことを意味するそうでもあります。

ですから、この「甲午（きのえうま）」の年は、大変勢いのある状態が始まることを表わすとされ、60年前の1954年、昭和29年はまさにこの年でありまして、戦後の復興期から高度経済成長へとその舵が切られ、経済成長が始まったと云われる勢いのある年であったそうであります。

この後、日本が世界に類を見ない素晴らしい経済成長をなし遂げたことは、皆さんご承知のとおりでございます。

私たちは、これまで、バブル崩壊後の「失われた20年」と云われる長く厳しい時代を過ごしてきました。そして、今「アベノミクス」と呼ばれる三本の矢で経済対策を実行して、「失われた20年」を取り戻そうとしています。

その始まりの年になる2014年。正月6日の年頭会見で安倍総理は「景気回復の裾野は確実に広がった。この好循環を今年は全国津々浦々に広げる」と力を込めました。

国は、今年度の補正予算5兆5000億円と来年度の予算95兆8823億円を合わせた「101兆円予算」の一体的な執行で「消費税増税による景気の悪化を食い止め、民間主導の成長を促す」としています。

私はこれを「苦しい時期が終わって、新しい世の中が始まる」という風にとらえ、明るい希望と夢をもって、本町の経済活性化のため、これらの経済対策や補正予算には積極的に対応して地域のインフラ等の整備をはじめ新たに様々な「定住促進」対策を進めたいと考えておりますので、皆様のなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

本町の水産に目を向けますと、昨年の両漁協合わせた水揚金額は、2年続けて32億円台を記録し、32億2千8百万円と見込まれておりまして、大変うれしく、漁業者みなさんの頑張りと浜の底力に感謝しております。

しかしながら、資源量の減少や漁業者の高齢化などで漁業所得にまだまだ不安定要素が多いなか、次代を担う若手の育成やつくり育てる漁業、付加価値向上対策など、より一層の漁業経営の近代化と生産性の安定を図り、安心して漁業に従事できる環境づくりが必要と考えております。

特に、漁業後継者対策では、農業に対する国の対策との格差が大きく、農業では、すでに平成24年度から対策がとられ、それも5年～7年という恵まれた支援期間が設けられていますが、漁業の場合は昨年からようやく国の支援が始まり、しかも最長で3年であります。

私どもは、農業に対する国の支援と漁業に対する国の支援との格差があまりに大きいことから、漁業への支援拡充を要望してまいりましたが、未だ、大きな差があります。

そこで、若い漁業後継者を増やすことに重点に置き、漁業の振興と地域の活性化を図るため、今年は、国の「漁業青年就業準備給付金」制度を補完する町独自の漁業後継者支援制度をつくることとして、現在、協議検討を重ねているところでございます。

同時に、IターンやUターンなどで島に移り住んでこられた若い漁業者の住宅環境を改善し、安心して漁に出掛けるようにしなければならないと、新たに若い漁業者の住宅を整備する制度も創設して若い漁業者への支援対策を進めていく考えであります。

さらに、礼文島の海産物に付加価値を付け、雇用の拡大を図るため、昨年から町と民間で「礼文町水産加工品開発協議会」を立ち上げ、官民が一体となって「礼文ブランド」の製品の独自開発に取り組んでおります。

将来的には、企画から加工、販売までを一貫して行う所謂「漁業の6次産業化」により、礼文島の海産物に付加価値をつけて、若者の雇用の場を確保しようとする画期的かつ壮大な取組であります。

今年も、更なる検証・協議を重ねながら「礼文島が生き残っていく」ための「攻め」の形を創り、若者の雇用の場を増やして、定住を促進し、町の活性化を図っていきたいと考えていますので、皆様には尚一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

一方、観光につきましては、今年度は13万5千人と予想され、わずかではありますが増加に転じております。

これまで進めてきた観光プロモーションや誘客キャンペーン、また、北のカナリアパークや海外への観光宣伝等の効果が、ようやく出始めたものと考えております。

今年は、「北のカナリアパーク」のオープン一周年記念でありますし、新たに連絡道路も完成しますので、記念イベントやさまざまな観光キャンペーンなどを実施して、観光客の誘致と地域経済への大いなる波及効果を図ります。

また、稚内利尻礼文航路の「フェリー乗り降りのバリアフリー化」を図るため、香深港のボーディングブリッジ設置工事に着手して、来年春の供用開始に向け、快適な環境づくりと観光の振興を図ってまいります。

昨年から工事を進めてきました香深中学校校舎の耐震化工事も、今年秋には完成を迎え、子供たちが安心して学校生活を送ることができるようになりますし、併せて、防災機能を持たせた校舎は防災拠点として災害時に大きな役割を担うこととなります。

さらに、北海道が施工する香深と西海岸元地をつなぐ1.5Kmの「新桃岩トンネル」工事の槌音が私たちの大きな期待と夢をのせて響きわたっております。

掘削工事も、昨年末には400メートルまで掘り進んだとうかがっており、いよいよ、礼文町も、少しずつ少しずつ、明るい方向に動きだしました。

この新しい年の始まりにあたり、私は、多くの先人が苦勞して築いてこられた「ふるさと礼文町」を、より元気な町にして未来に引き継いでいく決意を新たにしているところでございます。



どうぞ、ご臨席の皆様にも温かいご理解ご支援をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、平成 26 年新春懇談会の年頭のあいさつといたします。

今年もよろしくお願い致します。

“ご清聴ありがとうございました。”